

# 第2回 昭和23年度 1948

## 社会の動き

- 4月 新制高等学校発足
  - 5月 パレスチナ戦争開始(～49.1.8)
  - 7月 教育委員会法公布(11.1愛知県教育委員会発足)
  - 8月 朝鮮の南北分裂
  - 12月 東条英機らA級戦犯7名に絞首刑執行
- ..... 岡 崎 .....

- 6月 岡崎市繊維試験場開設
- 7月 市立岡崎病院を設置
- 8月 第1回観光夏祭り開催
- 12月 葵中学校完工

## 学校の沿革

- 8. 28 資金調達のため酒井しのぶ一座を招き演劇会を開催
- 9. 18 男川小校舎を中学校専用校舎として決定。本日より授業開始
- 9. 27 愛知第二師範学校教育実習協力校に指定され、教生指導実施
- 9. 28 合唱児童音楽コンクール2位  
第1回市長杯総合体育大会  
総合優勝
- 11. 3 中学女子陸上優勝  
卓球女子優勝
- 12. 12 軟式庭球男子2位
- 12. 19 資金調達のためバザー開催
- 1. 25 学校建設地について協議会開催
- 2. 14 学芸会開催
- 2. 27 40数回の会議を経て、丸岡町大字ハザマ4の1番地に決定



当時の職員一同 (石川民子氏より)

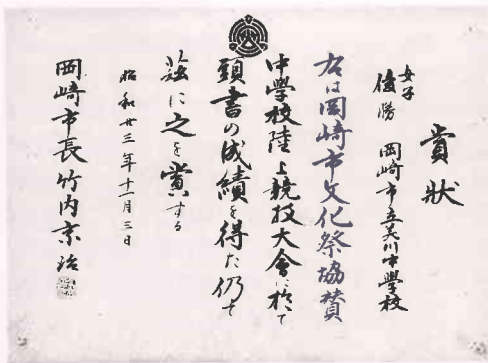
## 学校誕生のころ

市内中学校5校のうち、他校は着々と工事が進められているのに、本校は最後になっても校地が決まらない。学区はもともと男川・美合の二か村で、中に大平川を挟んでいるので、川の南だ北だと何度か会合を開いても意見が対立した。あげくの果てには大平川の上に建てるより仕方がないというような笑い話まで出る始末であった。

難航の末、やっと校地が決まると、学区の人々の勤労奉仕作業によって雑木林に線路が敷かれ、トロッコによって整地作業が行われた。運動場は昔、大平川の川底であったといわれ、丸い小石がざくざくと出た。そこで、金網の篩をつくり、建築用コンクリートに使う砂利をふるいわけた。建築費を助けようと全校生徒が一生懸命に仕事をした。ところが、ひどいでこぼこの運動場で、いくら石を拾ってもきりがないので、土をかぶせることにした。夏休みになると、全校ごぞって草刈りをして、丸山の種畜場へもっていき、そのかわりに種畜場のトラックで山のさば土を運んでもらった。時には生徒たちがバケツやふるしきで運んだりした。毎年秋の運動会前には、この土を運ぶことが年中行事のようになっていた。

このように学校誕生のころは、勉強時間を学校建設の手伝いにふり向ける日々が続いた。

(「岡崎の教育・この三十年」より)



3年1組学級写真



3年2組学級写真 (石川民子氏より)

第3回 1949  
昭和24年度

社会の動き

- 4月 北大西洋条約機構の発足
- 5月 国立学校設置法公布、新制国立大学の開校
- 7月 下山、三鷹、松川の怪事件が相次ぐ
- 9月 ドイツの東西分裂
- 10月 中華人民共和国の成立
- 11月 湯川秀樹にノーベル物理学賞が決定

..... 岡 崎 .....

- 5月 愛知学芸大学設置  
\*後に、愛知教育大学となり、45年4月に刈谷市に移転
- 6月 戦災復興モデル都市に指定
- 11月 竜海中学校完工
- 1月 甲山中学校完工
- 2月 市立岡崎病院若宮町に移転

学校の沿革

- 6. 27 愛知第二師範学校、教生指導行う(3週間)
- 7. 1 軟式庭球3位(平岩武一・佐々木良一)
- 7. 10 甲山中の災害援助の感謝状を市長より受ける
- 7. 9 整地起工式  
市制記念水泳大会1位(男女)
- 10. 22 校舎建設起工式挙行
- 10. 31 修学旅行2泊3日(関西方面)
- 12. 1 校舎建設用砂利採取を本日中、全校生徒で行う
- 2. 20 男川婦人同盟より跳箱2台寄贈
- 3. 18 善行賞(鈴木照男)



感 謝 詞

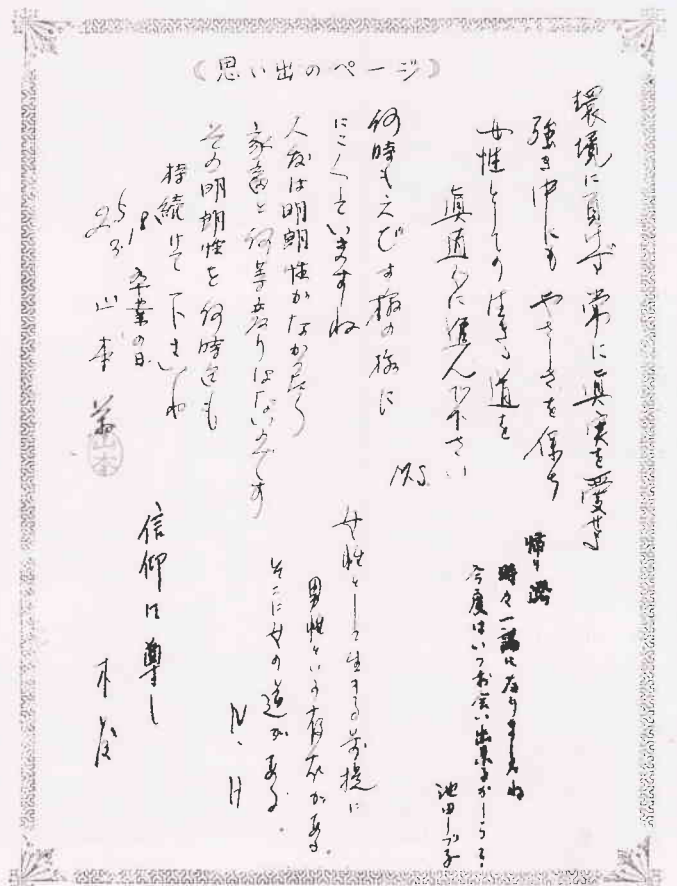
とやかに言いつしも  
よい先生方だった  
この言葉こそ今にして湧く心の声...

温容あふるゝお姿  
手を操りて導かれし  
懐しのその面影.....

先生!! お健やかに!!  
われらまた 明るく  
伸びん



(渡辺恵美子氏より)



(第三回卒業アルバム「友の面影」より)

# 第4回 昭和25年度 1950

## 社会の動き

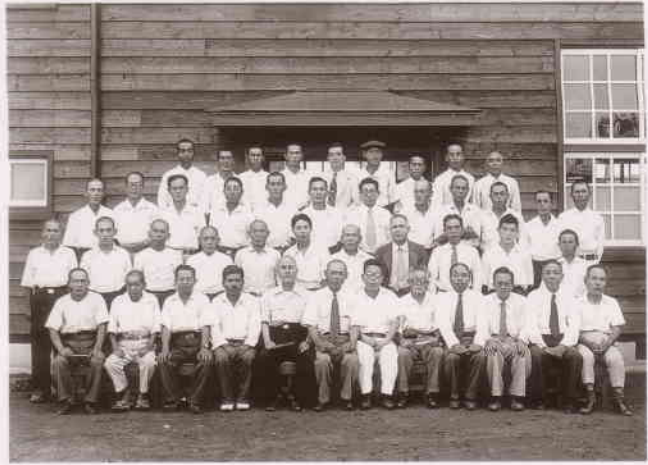
- 6月 マッカーサー、共産党幹部の追放を指令  
朝鮮戦争勃発
- 8月 警察予備隊令公布
- 9月 閣議、レッドパージの方針を決定
- 10月 文部省、祝日に日の丸・君が代をすすめる通達
- 11月 天野文部省、「修身科」復活の必要を表明  
旧軍人初の追放解除
- 12月 厚生省、夜間高校生に給食実施を決定
- 1月 日教組、「教え子を戦場に送るな」運動を決定

..... 岡 崎 .....

- 5月 南中学校完工
- 7月 美川中学校完工
- 10月 国勢調査実施  
(面積50.84km<sup>2</sup>、人口96,030人)  
第5回国民体育大会のバレーボール会場

## 学校の沿革

- 4. 19 全校前芝海岸で臨海学習
- 4. 27 男川青年連盟会員による玄関前の整地作業奉仕
- 7. 4 新校舎清掃作業中、火薬の爆発で生徒4名と森島教官負傷
- 7. 5 竣工式挙行(開校時の校舎は碧海郡柵塚航空隊兵舎を移転改築したもの) 工費: 12,348,000円
- 7. 9 校舎竣工祝賀祭挙行
- 7. 30 1・2年臨海学習(東幡豆)
- 8. 12 実験青年学級の指定を受け、第1回講座を開講
- 10. 4 修学旅行(2泊3日)
- 11. 19 電話開通
- 12. 18 16ミリ映写機購入する
- 1. 16 ピアノ開鍵式  
(学区並びに日清紡寄贈)  
校歌を初めて披露
- 2. 13 視聴覚教育研究発表会を開催



建設協力委員(「竣工記念誌」より)

美川中学校建設概要

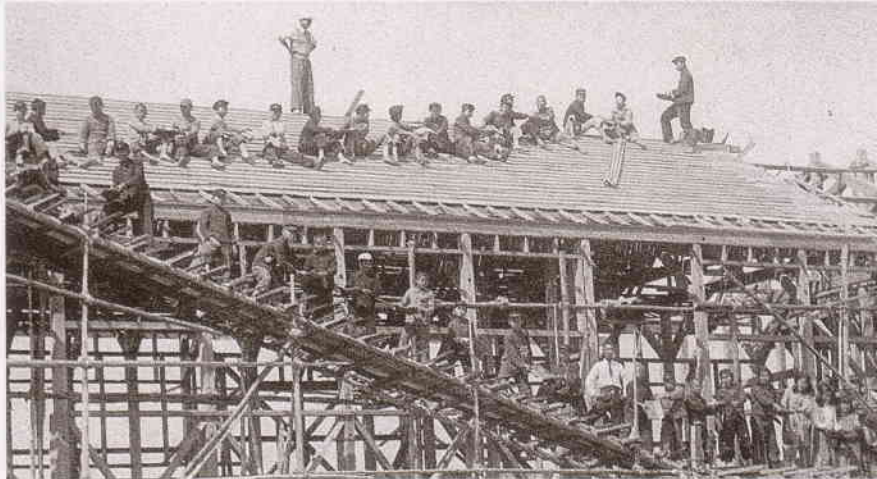
一 敷地決定  
男川天台函学区よりそれより委員を差出し、協議に協議を重ね昭和二十四年二月二十七日、萬場一敷地決定に決定した。

二 整地起工式  
敷地決定後直ちに建設委員を差出し用地の売却に当り全敷地の売却を完了し、今年七月九日、午前二時整地起工式を挙行した。

三 建設起工式  
整地起工式終了と共に学区区民会南北町と隣町の勤労奉仕により敷地七千二百余坪の整地が完了したので、今年十月二十二日午前二時より、竣工起工式を挙行した。

四 竣工式  
待望の新校舎普通教室一七特別教室六其他二室に玄関廊下等を含め総坪数一〇三三坪の堂々たるもの、完成と終り本年七月五日午後四時より竣工式を挙行した。

昭和二十五年七月  
岡崎市立美川中学校建設協力会  
以上



建築作業風景(「竣工記念誌」より)



竣工式



新 校 舎  
 (「竣工記念誌」より)



竣工祝賀祭



水泳練習のひとつき

### 木の香も懐かしい新校舎

第4回卒業生 柴田 録治

わたしどもが中学校に入学した当初は、校舎がなく美合小に宿借りしたり、その後男川小のお世話になるといった落ち着きのない状態でした。そうこうする内に、現位置に校舎が建築されることになり、勉強の時間を建築の手伝いに振り向ける日々が続きました。建築材の運搬、とりわけ大平川の河原から石をころがし運んだことや、釘不足から焼け釘を伸ばしたこと、うっかり材木に打ち込み、ノコギリの目を欠いて、大騒動したことなど懐かしい思い出です。こうして母校建設への惜しみなき努力をしながら、新校舎を利用する機会なく卒業して行った先輩達にはすまないという感謝の気持ちとともに、木の香かおる新しき学び舎に夢多き日々を運よく過ごすことのできた喜びはまた格別です。

当時はなお戦後の混乱が続いた時代で、制服はおろか衣服もまともなものはありませんでした。通学姿は、半ズボンに、げたとかぞうりばき、カバンがわりに軍隊の雑のうとかふるしきを用い、昼食時には、ぞろぞろ家まで食べに帰っていました。

(「20周年記念誌」より抜粋)

第5回 1951  
昭和26年度



第2代 柄崎 謙一 校長  
(昭和26.10.5～昭和29.3.31)

社会の動き

- 4月 マッカーサー解任
- 7月 文部省、「学習指導要領一般編(試案)」を改訂
- 9月 サンフランシスコ講和条約、日米安全保障条約調印
- 11月 公職追放解除法公布
- ..... 岡 崎 .....
- 4月 第1回市民大学講座開講  
消防署完工
- 5月 岡崎保健所が現在地に新庁舎完工
- 7月 菅生祭、ホコ船「天王丸」転覆
- 12月 名鉄市内線が福岡町まで延長  
戦災復興五カ年計画完了

学校の沿革

- 5. 16 初めての東京方面への修学旅行
- 7. 22 校舎竣工1周年記念祝賀会開催
- 7. 30 1・2年臨海学習(東幡豆)
- 7. 31 3年臨海学習(新須磨)
- 8. 22 西三女子選抜ソフトボール大会優勝
- 9. 18 職業科研究会を開催
- 12. 11 数学科研究会を開催
- 12. 16 防火貯水池工事開始
- 1. 28 西三剣道大会優勝
- 2. 10 岡崎市内1周駅伝競走優勝



4 Hクラブの活動

当時の思い出

2代校長 柄崎 謙一

特筆したいのは学区内の皆様から寄せられた学校に対するご信頼と積極的なご協力であって、これは岡崎市内あちこちにも見られないほどで、当時の美談でさえありました。美川中学校に転任のとき「なんにも心配せんでよい。学区のみなさんはとてもよい。前校長さんがなにもかもちゃんとやって残してある。学校のことは浅井さんや、石井さんにまかせておけばよい。」と教育長さんから言われ、私は安心して着任しました。

学区のみなさんから路上で、バスの中で、会合で、色々お話を聞きました。他とちがっていたのは、なげやりの批判のための批判ではなく、いつも建設的で協力的であったことでした。PTAの会合ではいつもなごやかでした。ときには勝手に私共のお願いも、時間がかかったのは、その提案をどのように100%以上に実現するかということの話し合いです。

(「20周年記念誌」より抜粋)



英語の授業

4 Hクラブの回顧

(head・hand・heart・health)

昭和26年9月18日に4 Hクラブ発足。生徒は30～40人はいつもいた。当時、職業科(農業科)の中に選択として農業・工業・家庭科があった。西尾の斉藤農園で桜の木を1本20円で買って、体育館や玄関周りに植えた。

市の農務課のアドバイスで、勤労学習・奉仕活動・助け合い学習の目的でつくれた。父が病気で稲刈りができない家にオート三輪にみんなで乗って行って刈ったり、脱穀機を積んで行って脱穀したことが当時大きく新聞に載ったこともあった。

大平川の堤防の下の畑でスイカを作った。そこで天幕を張り盗まれないように番をした。また、大根を農場で作って、タクアン漬の桶を八百屋でもらってきてタクアン漬を売ったこともあった。白菜や葉ボタンも売った。大豆を運動場の隅に作り、豆腐の加工をしたり、シイタケの原木を山に切りに行きシイタケ菌を打ち、加良須神社の前の林に並べてシイタケを出したり、温室でメロン作りやハウスでのトマト作りも行った。種畜場からトラックで堆肥を三輪に大量に積んで運んできた。さつまいも・ばれいしょを作り、主としてレーヨンでよく売れたので、販売実習も兼ねて売った。落花生も作ってドラム缶の中でグルグル回して焼いて、三角の紙袋を作ってその中に入れ、10円で売った覚えがある。

(4 Hクラブ担当 山本 栄氏談)